

書くの嫌

Maxime Buquet

一、テーマ

どうしても、書かなければいけないときは嫌。嫌な感じになる。なぜ人がそんなに書きたいのか、私には分からない。私は嫌だ。

家族みんなが科学が好きで、文科があんまり好きではない。嫌という気持ちになったのは、初めて苦手だと気づいた時だと思う。最初から書くことが苦手で、どんなに小さい作文でも、非常に長い時間かかる。小学校の時は、量が足りなかったり、先生が気に入らなかったりするたびに、何度も書き直すように言われた。だから、いつもお母さんに手伝ってもらった。大学に入ってから、お母さんにはもう頼らないが、ただレポートや小論文をできるだけ避けることにした。

なぜ書くことが嫌なのか、私には分かる訳ないと思う。でも、なぜ書くことが苦手なのかを説明する前は、書くってなんだろうと言う質問に対して答えないといけない。書くということは、次の二つの点があることを強調したい。まず書かされているときの書く、学校や仕事で誰か上の人に書かされているとき、自分から書こうとしないとき。特に内容が好きじゃないとき。それから、ブログとかで、新しく面白いコンテンツをアティクルで書きたいとき。その二つの書くの意味について考えたいと思ってる。

どうして書くことが苦手なのか、確かなことは二つある。まず、何を書いていいか、作文をするためにどのように考えればいいのか分からない。言いたいことがはっきりしていないからだ。このプロジェクトのみんなさんと一緒に掲示板で話したり、考えたりすることで、言いたいことが見つかって助かった。でも、何を言うか分かっても、みなさんの言ったことを纏めること、要約することがどうしても苦手だ。それから、書くときは目的がある。考えや気持ちを伝えたくて書こうとする。でも母語でも、どんな言語でも、言葉の正しい使い方を使いたいと思ってる。単語の量が足りなかったり、文法を間違えたりすることがよくあるもの

なので、外国語にするとその目的を達成することが難しくなると思う。自分は、できる限り正しく、完璧にその言語のネイティブのように言葉を使いたいと思っている。言葉の使い方が分からないときやアイデアをどうやって口に出したらいいかと思うときはよくある。まだ素人の私は多分自分に厳しすぎるかもしれないが、そのせいで「まいいか」と思ってやめてしまう。

二、対話

本当はプロジェクトを始めてから以下の対話はもうしていた。でも一人だけで足りるかと思って、友達の見聞を聞きたくて、色々な対話をしたいと思った。

対話相手は友達のRさん。彼女は短大を卒業して、四年生大学の3年生から入って、卒業した。今は二人の可愛い子供たちのままだが、彼女は大学に戻りたい時がよくあると言っている。(笑)そして、彼女のご両親はホテルの経営をなさっていて、彼女はたまに実家に戻ってお手伝いしていたりする。

対話・Rさん

- > 早稲田のレポート、読んでどう思う？
- > Rさんは書くのが好き？

私も大嫌いだったよ！

でも、今は嫌いじゃないよ

書きたいテーマがあるなら、書きたいと思う

- > 何で嫌だったか分かる？先生や誰かに書かされて嫌になったのか？
- > それとも苦手だった？

> 今は嫌いじゃないのは、何かあった？前と何が違う？

書くのが苦手だった

何を書きたいか分からなかったし、自分の気持ちが分からないから、文章にできなかった。

今は、自分の気持ちをうまく表現できるようになったから、書くのは嫌いじゃない。

うまく書けたら嬉しいし
きっかけは、ホテルのネットで売るプランを作っていたことかな！

どういうキーワードが、ホテルの魅力をうまく伝えて、お客様に来てもらうかを考えてたからだと思う。

そしたら、PCに向かってなくても、いつもそういうキーワードを探すようになったんだよね。

> 自分の気持ちが分からなかったって、言いたいことが分からなかったってこと？どの内容でも同じ？

気持ちって、“あること”が起きた時に、自分がどう感じるかってことでしょ。だから、自分がどういう気持ちになったのかわからなかった気がする。

例えば、映画を見て感動したっていう気持ちはわかるけど、その理由とか、どういうところに自分が感動したのか分からなかった。今なら、このシーンの主人公の気持ちが、「きっとこういう気持ちなんだろうな」って思って、でも例えば自分の気持ちを押し殺したリアクションをしたりする。

そしたら、「きっと辛いだろうに、すごいな。えらいな。」とか、自分がその立場だったらどうするかってことを、簡単に想像することができるから、気持ちが投影しやすい。そしたら、その時の主人公の気持ちと、自分の気持ちを比べたりして、たぶんそれだけで文章を書けると思う。

昔は違ったよ。中学生の時に、TITANICが大好きな友達がいる、一緒に映画を見に行ったらよ。その友達は、もう6回目だったんだけど、私は初めて見て、確かに感動したけど、泣くほどじゃなかった。でも、その友達は、ハンカチがびしょびしょになるほど泣いてた。私には一回見れば十分だったけど、その友達は何回も見たいって言ってた。

その時だったら、きっと私にも書けなかったと思う。

> キーワードはどうやって探す？

普段の生活のなかで、旅行にでかけたって思うときは、心理学的には、非日常の空間に行きたいときなんだよね。だから、非日常を求めて旅行するお客さんの、その欲求を、実際に旅行に行きたい。ここに行ってみたって思ってもらうには、きれいな言葉で、お客さんの気持ちを「非日常的な空間がここにあった！」って思わせるような言葉を、いつも探してる。

例えば、「おいしい食事」だったらどこにでもある言葉だけど、「暖炉（だんろ）の燃える温かなレストランでの至福のひとつ」みたいに、ちょっとかっこつけてみるの。ちょっと難しいかもしれないけど、私は、そういう言葉を大切にしているんだよね。

そして、そういう言葉を受け取ってくれるお客さんに来てほしい。自分が来てほしいお客さんを、自分の言葉で選ぶこともできるんだよ。

- > それから、書かってなんだろう？宣伝とかをするための書く？
- > 作文とか小論文は多分もうしないけど、学校にいたときにはまだ好き
- > じゃなかった？今はレポートとか書かされたらどう思う？

高校3年の時に、苦手をなくしたくて、小論文の授業をとったよ。その授業で書く練習をして、短大の時は、毎日すごい量のレポートを書かされた。英語の授業があって、毎日いろんな授業で、いろんなレポートを書かなきゃいけなくて、その時に、書けるようになったかな？今は、レポート書くのは、そんなに嫌じゃないと思う。勉強したいし、久しぶりだから！！

対話結論

Rさんにとっては、書くのが嫌いではない、むしろ好きみたい。「書きたいテーマがあるなら、書きたいと思う」、「うまく書けたら嬉しい」と言っている。書くのが苦手だった彼女が、その苦手をなくしたくて授業をとった。それで、自分の気持ちを理解するようになったから、うまく書けるようになって、好きになったかなと思う。

今は小論文をするときに、テーマについてキーワードを探すと言ってる。ご両親のホテルのプランを作ったとき、お客様の欲求を含めてキーワードを探す。そのキーワードはテーマに対しての気持ちであろうかなと思う。

三、結論とおわりに

私にとって、早稲田プロジェクトと「書くの嫌」というテーマは関係があるので、「おわりに」は「結論」と繋がりがある。だから、「おわりに」は「結論」を一緒に書きたいと思う。

このプロジェクトの途中で、何度も諦めようとした。やはり書くの嫌だ。私は、普段は、好きじゃないことをするとしたら、やる気があまり出ないので、誰かの応援がないとだめ。学校や仕事なら仕方ないのだが、もう自分からはそういうことはしないと決めた。そういうこととは、「書くこと」だ。つまり、内容が好きではなかったり、特に私には重要だと思わなかったりする場合には、もう自分から書くことはと決めた。

でもこのプロジェクトを通して、たくさん書いて、考えて、対話をし、自分をもっと知ることができたと思う。元々書くことが苦手で、自分の考えを文章にあまりできなくて、纏めること、要約することもよくできない。いつも完璧に書こうとしている私には、外国語を使って、「この文章でどの言葉がいいかな」、「この言い方正しいのか」ということを、いつも考えてしまい悔しかった。日本語で小論文を書くのなら日本語能力がまだ全然足りない。

最後に、気づいたのは、他の人に見せる予定があるなら、表現することは、私にはますます難しくなる。日記みたいなものなら、同じく、少ない量で書いても大丈夫だけど、逆に他の人に見せるようなものだったら、恥ずしい気持ちが出てきて、見せない方がいいと思うようになる。